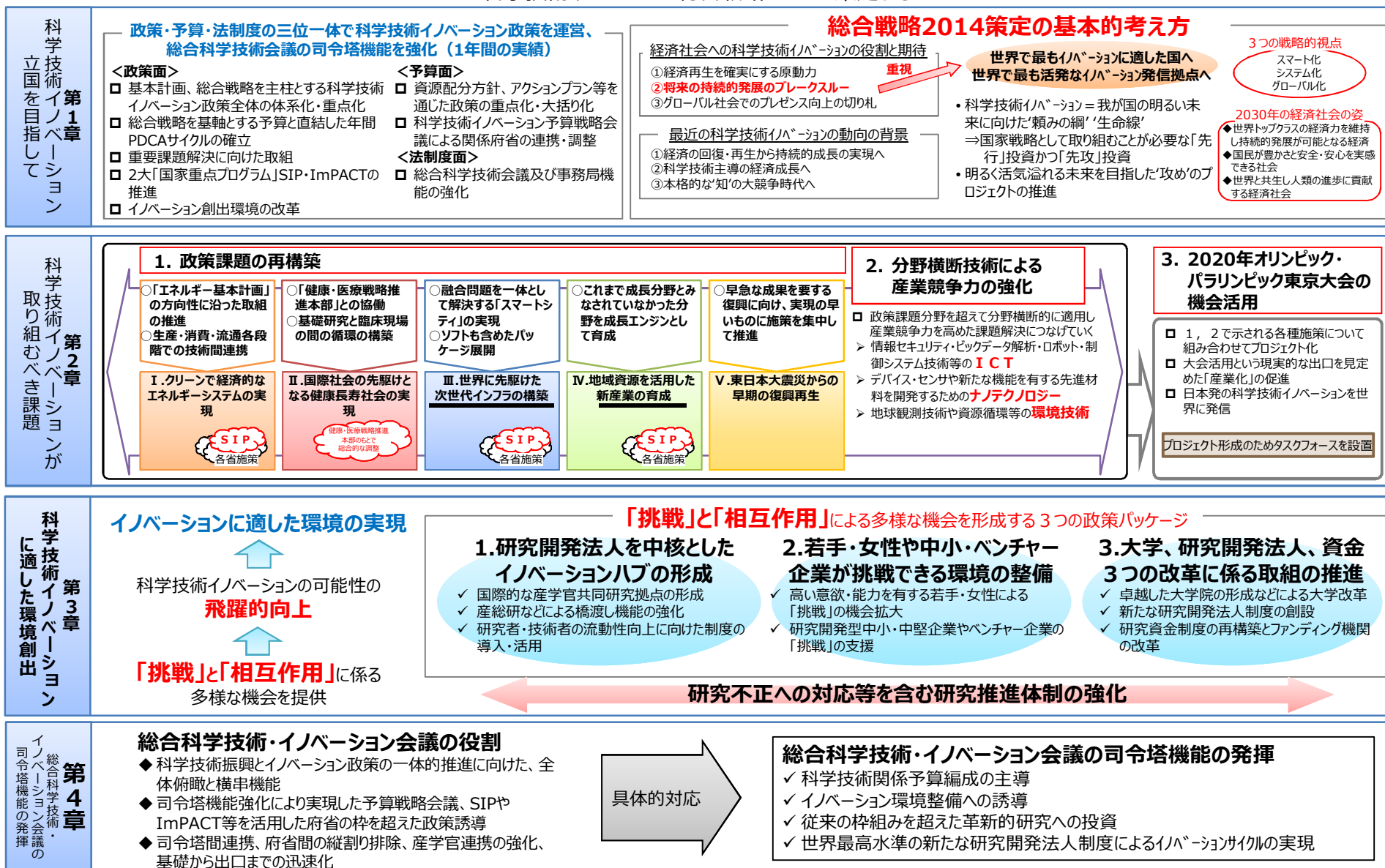


科学技術イノベーション総合戦略2014 ～未来創造に向けたイノベーションの懸け橋～ 【概要】

平成26年6月閣議決定

「世界で最もイノベーションに適した国」を目指し、更なる科学技術イノベーション政策の推進と着実な実行に向け、科学技術イノベーション総合戦略2014を策定する。



平成27年度 科学技術に関する予算等の資源配分の方針【概要】

(平成26年7月17日総合科学技術・イノベーション会議決定)

基本的考え方 —「科学技術イノベーション総合戦略2014」(6月24日閣議決定)の確実な実行に向けて—

- 戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)を継続的かつ力強く推進し、成果を確実に出口(実用化・事業化)へ
- 政策課題の解決に向け、アクションプランにより各府省の施策のプログラム化等を促進し、年間PDCAサイクルを確立
- 持続的なイノベーションシステムを目指し、研究開発法人をはじめとする制度改革と連動する政策パッケージを推進
- 「第4期科学技術基本計画」及び「日本再興戦略」に基づく政府研究開発投資の促進(対GDP比1%)等を関係府省において努力

平成27年度予算における重点化の考え方(ポイント)

1. 直面する重要課題への対応

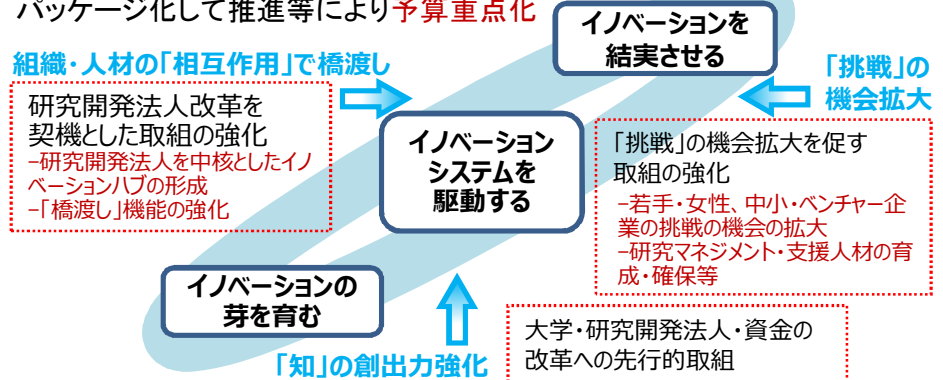
(SIPを先導とするアクションプランを用いた政策誘導)

- 総合戦略2014第2章の政策課題(エネルギー/健康長寿/次世代インフラ/地域資源/復興再生)の解決に資する、
 - － 中心的役割のSIPを補完し相乗効果をもたらす施策群
 - － 府省一体(連携・重複排除)で取組が必要な施策群
 - － 産業競争力強化の源泉となる分野横断技術を「アクションプラン対象施策」に特定し、予算重点化
- 施策の特定からフォローアップまで、詳細工程表に基づき、有識者議員が主導して重要課題専門調査会を活用する一貫した審議体制で推進し、PDCAを強化(行政事業レビューとも連動)
- 27年度科学技術イノベーション創造推進費は、
 - － 目未定調整費で要求し、SIPを継続的かつ力強く推進
 - － SIPの10課題の内容を精査し配分を機動的に見直し
 - － 必要に応じ新規課題の追加、課題の入れ替えも検討

(※)健康医療分野に関しては、健康・医療戦略推進本部の下で推進する。

2. 科学技術イノベーション環境創出(イノベーションシステム改革)

総合戦略2014第3章に基づく制度改革と連動させ、全体最適化の視点で予算で重視すべき以下の施策をパッケージ化して推進等により予算重点化



3. 国家的に重要な研究開発の評価

大規模新規研究開発など国家的に重要な研究開発の評価を実施し、その結果を予算編成過程で活用

平成27年度 科学技術関係予算の編成に向けて【概要】

(平成27年1月13日総合科学技術・イノベーション会議決定)

- 経済好循環に兆しが見えつつある今、我が国経済を確実に成長軌道へと乗せ、中長期にわたり持続的に成長可能なものとしていく好機。
- 我が国経済の再生に向けた強い決意のもと、昨年6月にとりまとめた総合戦略2014を確実に実行すべく、総合科学技術・イノベーション会議が司令塔機能を最大限発揮し、概算要求を主導。

科学技術関係予算の編成に向けた考え方

1. 直面する重要課題への対応

(1) 戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)による重点化

- ー 関係府省の所掌事務や研究分野の縦割りを超えて、基礎研究から出口までを見据えた研究開発や、規制制度改革を含めた取組を推進するプログラム。
- ー 課題ごとに決定されたプログラムディレクターが関係府省を主導して、計画を強力に推進。

●科学技術イノベーション創造推進費:500億円(要求・要望額) ⇒ 重点化対象

(2) 科学技術重要施策アクションプランによる重点化

- ー 各府省の課題解決型の施策について、府省横断でかつ政策課題解決を先導する体制を構築するものに、重点化の対象を決定。

●アクションプラン対象施策:2.967億円(要求・要望額) ⇒ 重点化対象

2. 科学技術イノベーションに適した環境創出に向けた対応

- ー 各府省のイノベーション環境創出に向けた施策について、関連する施策をパッケージ化し、相乗効果を高め、「世界で最もイノベーションに適した国」の実現を図る取組に、重点化の対象を決定。

●イノベーション環境創出対象施策:674億円(要求・要望額) ⇒ 重点化対象

3. 国家的に重要な研究開発の評価

- ー 昨年度に行った大規模新規研究開発評価「エクサスケール・スーパーコンピュータ開発プロジェクト(仮)」の評価結果を受けて、「フラッグシップ2020プロジェクト(ポスト「京」の開発)」の評価を実施。
- ー プロジェクトの意義・必要性を改めて確認するとともに、2019年度までの開発目標や工程表についても妥当である等の評価結果を受けて、所要の予算を確保。

4. 科学技術関係予算全体について

- 平成27年度は、第4期基本計画の最終年度。
- 第4期基本計画においては、政府研究開発投資を対GDP比の1%(約25兆円)とすることを目標。
- 日本経済再生のための科学技術イノベーション政策の重要性から、科学技術関係予算の充実・確保に向けて取り組む。

所要の予算の確保、
政策のさらなる推進

科学技術イノベーション
政策を通じた我が国経済の再生

平成27年度アクションプラン対象施策について

重点対象	平成27年度特定施策数		平成27年度 概算要求額			
	SIPを中心 とした 先導役の 施策数	新たな先導役を 誘導する施策数 (Ⅱにおいては健康・医療戦略推進 本部において定 めた重点領域に 基づく施策数)		平成27年度 当初 予算額	平成26年度 補正 予算額	平成27年度 当初予算額 ＋ 平成26年度 補正予算額
Ⅰ．クリーンで経済的なエネルギーシステムの実現	45		1,030億円	926億円	－	926億円
	10	35				
Ⅱ．国際社会の先駆けとなる健康長寿社会の実現 ※	50		1,217億円	1,061億円	11億円	1,072億円
	－	50				
Ⅲ．世界に先駆けた次世代インフラの構築	44		669億円	480億円	82億円	562億円
	34	10				
Ⅳ．地域資源を活用した新産業の育成	11		96億円	76億円	－	76億円
	8	3				
Ⅴ．東日本大震災からの早期の復興再生	24		364億円	294億円	－	294億円
	－	24				
合 計(注)	153		2,967億円	2,494億円	93億円	2,588億円
	50	103				

※ 健康・医療戦略推進本部が取りまとめた各省連携プロジェクトをアクションプラン対象施策としている。
(注) 合計は、再掲分を除いて計上。

【参 考】	
平成26年度 特定 施策数	平成26年度 当初予算額 ＋ 平成25年度 補正予算額
クリーンで経済的なエネルギーシステムの実現	
35	1,165億円
国際社会の先駆けとなる健康長寿社会の実現	
7	789億円
世界に先駆けた次世代インフラの整備	
15	444億円
地域資源を‘強み’とした地域の再生	
15	327億円
東日本大震災からの早期の復興再生	
26	245億円
98	2,971億円

・金額：四捨五入の関係で合計は一致しない。

平成27年度イノベーション環境創出のための重点施策

(制度面に係るものを除く)

内数: 運営費交付金の内数
金額は百万円の位を四捨五入

	パッケージ	平成27年度 概算要求額	平成27年度 当初予算額	平成26年度 補正予算額
	対象施策			
若手・女性の挑戦の機会の拡大	●中長期研究人材交流システム構築事業(経産省)	0.7億円	0.6億円	-
	●科学技術人材育成のコンソーシアムの構築・定着事業(文科省)	20.5億円	13.3億円	-
	●ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(文科省)	26.0億円	10.9億円	-
	●頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進事業(文科省)	27.3億円	19.0億円	-
	●海外特別研究員事業(文科省)	26.3億円	20.6億円	-
	●戦略的国際協力研究イノベーション共同ラボの形成 ※戦略的国際共同研究プログラム(SICORP)の一部(文科省)	17.8億円	内数	-
	●研究大学強化促進事業(文科省)	64.0億円	62.0億円	-
	●博士課程教育リーディングプログラム(文科省)	185.0億円	177.6億円	-
	●世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)(文科省)	99.1億円	96.1億円	-
研究開発法人を 中核としたイノ ベーションハブ の形成	●研究開発法人を中核としたイノベーションハブの構築(文科省)	内数	内数	-
	●ナノテクノロジープラットフォーム(文科省)	20.2億円	17.1億円	-
	●プログラム・マネージャー(PM)の育成・活躍推進プログラム(文科省)	内数	内数	-
	●産総研における「橋渡し」研究機能強化事業(経産省)	19.0億円	内数	-
中小・ベンチャー 企業の挑戦の機 会の拡大	●中堅・中小企業への橋渡し研究開発促進事業(経産省)	24.0億円	-	14.2億円
	●研究開発型ベンチャー支援事業(経産省)	47.0億円	-	17.6億円
	●【再掲】産総研における「橋渡し」研究機能強化事業(経産省)	19.0億円	内数	-
	●グローバルアントレプレナー育成促進事業(EDGEプログラム)(文科省)	12.3億円	8.7億円	-
	●戦略的情報通信研究開発推進事業(SCOPE)(総務省)	21.6億円	19.6億円	-
	●I-Challenge!(ICTイノベーション創出チャレンジプログラム)(総務省)	5.0億円	3.7億円	-
	●ICTオープンイノベーション促進研究開発事業(総務省)	4.0億円	-	-
合 計		673.7億円	483.0億円	31.8億円

フラッグシップ2020プロジェクト（ポスト「京」の開発）【文部科学省】

評価結果（案）の概要

（平成25年12月の事前評価の結果を踏まえ、再度の評価を実施）

事業概要

【概算要求時点での事業計画】 <実施期間>平成26(2014)年度～平成31(2019)年度

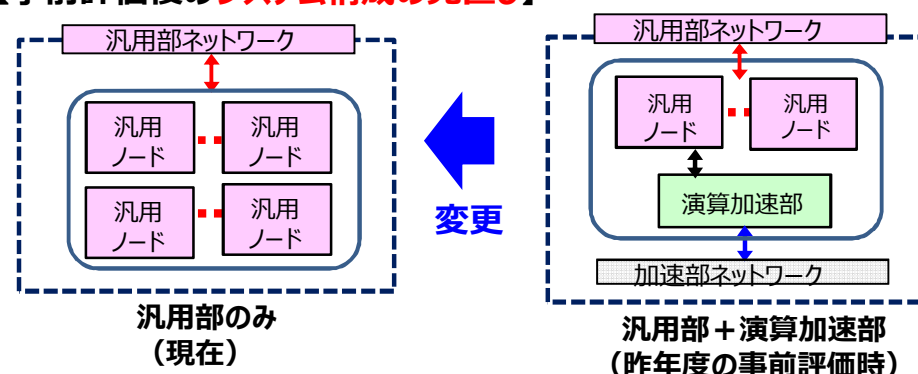
<予算額>平成27年度予算案:約40億円、国費総額:約1100億円

2020年をターゲットとし、幅広いアプリケーションソフトウェアを高い実効性能で利用できる**世界最高水準のスーパーコンピュータ**と、我が国が直面する課題の解決に資する**アプリケーション**を協調的に**開発する**。

開発目標

- ・最大で「京」の**100倍のアプリケーション実効性能**（ターゲットとするアプリケーションソフトウェアを実行した場合の演算速度）
- ・**30～40MW**の消費電力（「京」は12.7MW）

【事前評価後のシステム構成の見直し】



評価結果

総合評価

- **世界最高水準の汎用性のあるスーパーコンピュータの実現を目指す**ものであり、**意義・必要性は改めて認められる**。
 - ・システム構成の見直しにより、様々なアプリケーションに対応可能な**汎用性の高いシステムを開発**
 - ・世界最高水準の計算機システムに対応した**開発目標を設定**
- **9つの重点課題の設定**、ターゲットアプリケーションについての適切な方針設定等、**事前評価での指摘事項に対応**。
- 平成28年度に**フォローアップ**を行うほか、平成29年度の文部科学省の中間評価結果を踏まえ、CSTIでの**中間評価**の実施を判断。

主な指摘事項

- ・スパコン開発の**意義・必要性、有効性**を一般国民も実感できるよう、**アウトカムを更に具体化、明確化**すべき。
- ・継続して競争力を確保するための**長期的な技術開発戦略**の検討が必要。
- ・CPU製造の海外委託に際しての歩留りの確保等、**想定されるリスクへの対応策**の検討が必要。